資料5

果樹農業に関する現状と課題について

令　和　元　年　１　０　月

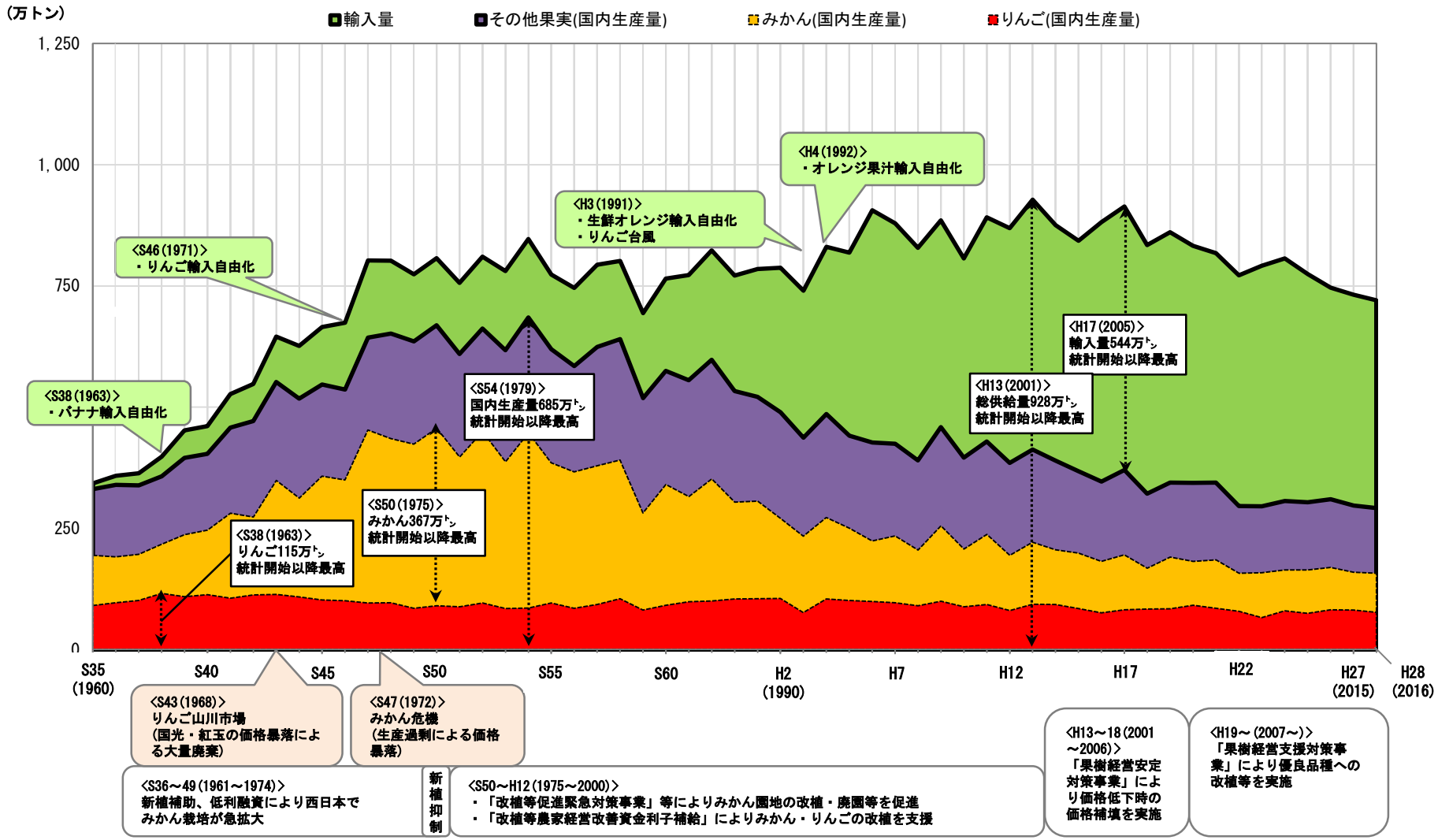
農林水産省

目　次

１　果実の需給構造・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２　果樹農業の特長と重要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
３　果樹農業の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（参考１）労働生産性の向上に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
（参考２）苗木・花粉の供給体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
（参考３）果樹農業における法人化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
（参考４）果実の消費動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
（参考５）果実の加工動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
（参考６）果樹研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
（参考７）地球温暖化の影響と対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
（参考８）台風・豪雨等の自然災害への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

1　果実の需給構造 ①（生産量、輸入量の推移）

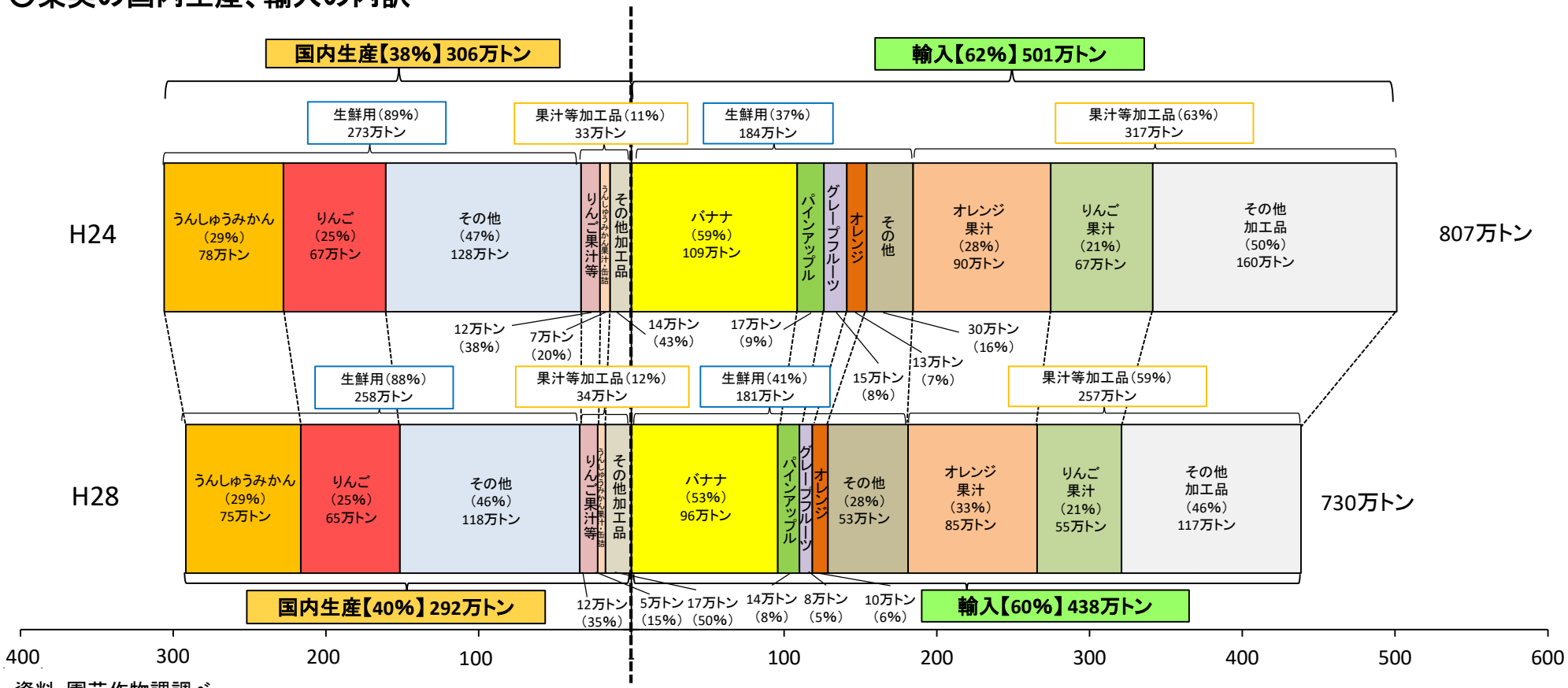
○　果実の生産量は、戦後大きく増加し昭和54年にピークに達した後、現在に至るまで減少を続けている。
○　輸入については、自由化に伴って段階的に増加傾向にあったが、近年は減少傾向。



1　果実の需給構造 ②（国内生産、輸入の内訳と推移）

○　平成24年と28年を比較すると、国内生産が約４割、輸入が約６割を占める状況に大きな変化はないが、その合計値は9.5%減少。
○　国内生産の減少率は4.6%、輸入の減少率は12.5%と、輸入の減少率が大きい。
○　国内生産はうんしゅうみかんの減少率が大きい（▲3.6%）。
○　輸入については、果汁等加工品の減少率が大きく（▲18.8%）、これは、果実ジュース等の消費の減少が影響していると考えられる。

○果実の国内生産、輸入の内訳

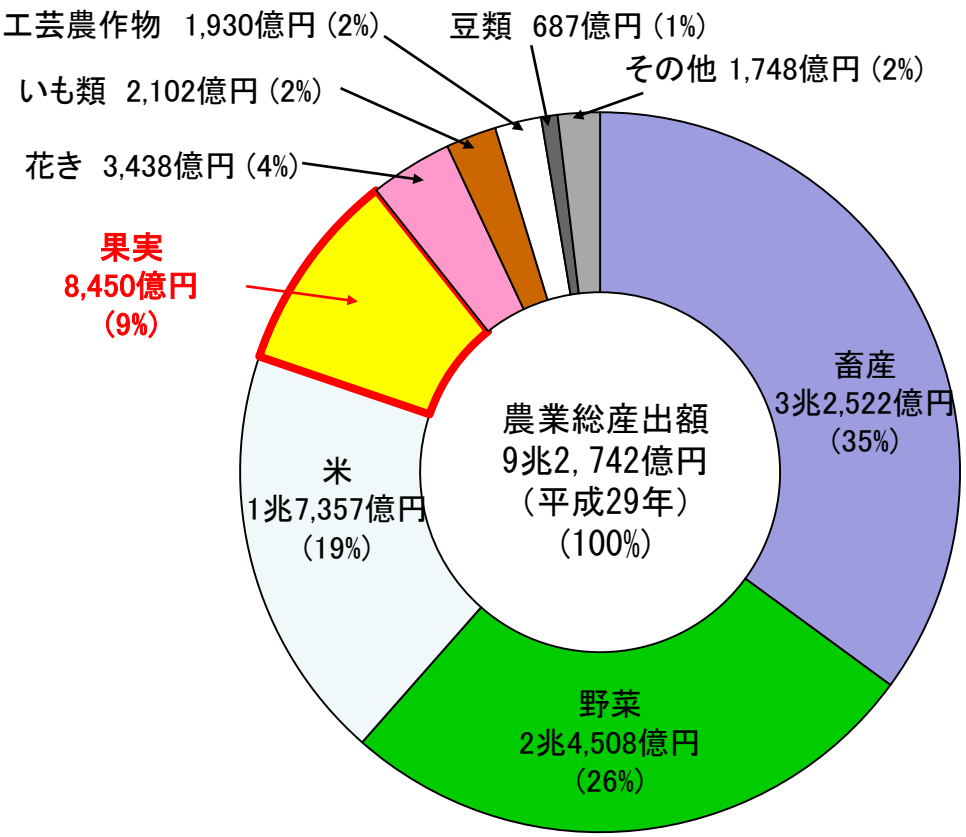


資料：園芸作物課調べ
注：果汁、加工品については生果に換算している。
※当該データは、メーカーや団体等への聞き取りをして整理した推計値である。

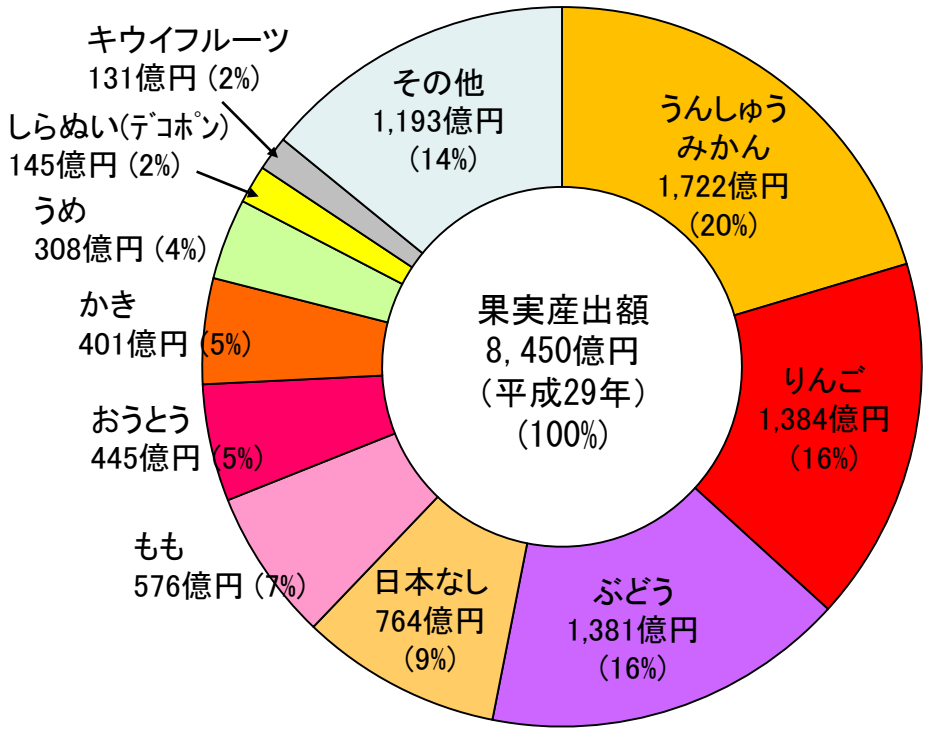
1　果実の需給構造 ③（産出額）

○　果実の産出額は約8,500億円で、農業総産出額の１割程度を占めている。
○　品目別では、うんしゅうみかんとりんごで果実産出額の４割程度を占めている。

○我が国の農業総産出額（平成29年）



○果実産出額の品目別割合（平成29年）

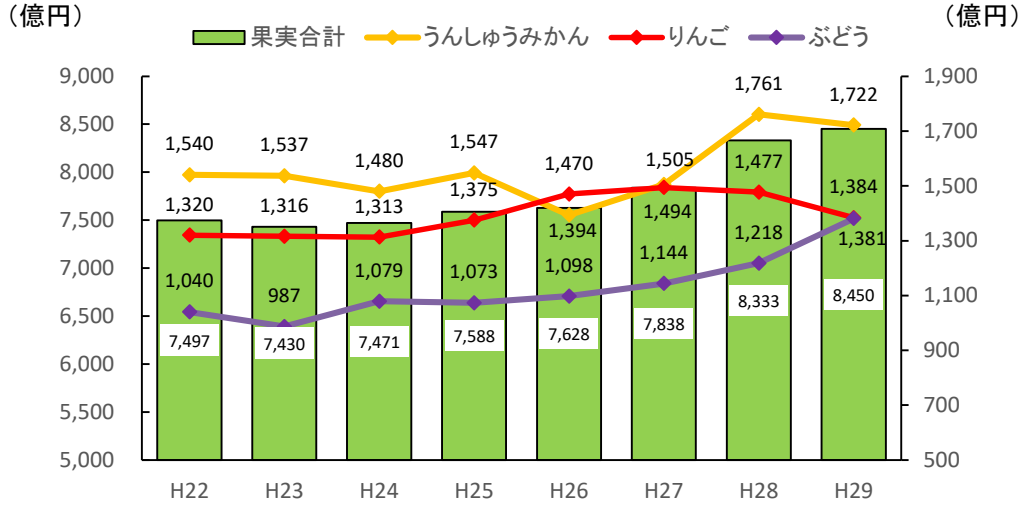


資料：農林水産省「生産農業所得統計」
　注：果実産出額の品目別の値は、都道府県別の合計値である。

2　果樹農業の特長と重要性 ①（国産果実の需要）

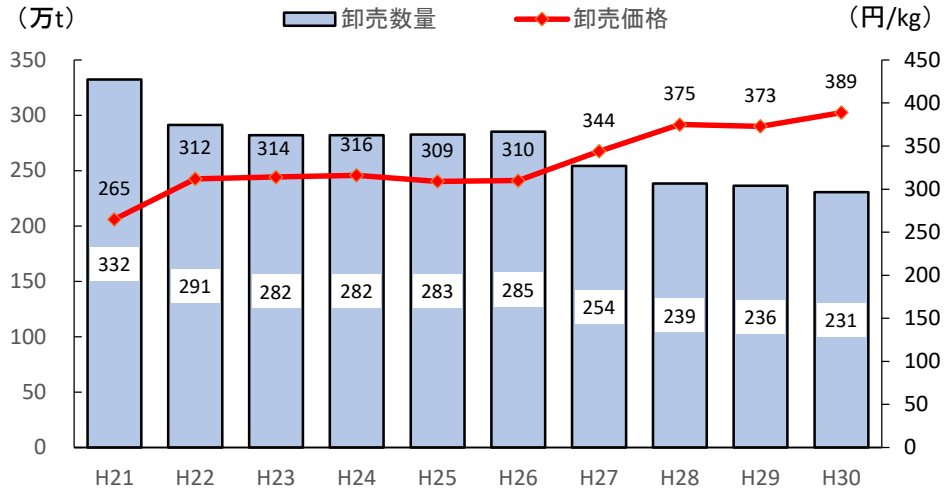
○　果実の産出額は平成24年から、６年連続して増加している。
○　国産果実の卸売数量は減少傾向である中、卸売価格は上昇傾向で推移している。
○　この背景として、①優良品種・品目への転換等により、消費者ニーズにあった高品質な国産果実が生産されるようになったことに加え、②人口減少等による需要の減少以上に生産量が減少していることが考えられる。

○国産果実の産出額の推移



農林水産省「生産農業所得統計」

○国産果実の卸売数量・価格の推移



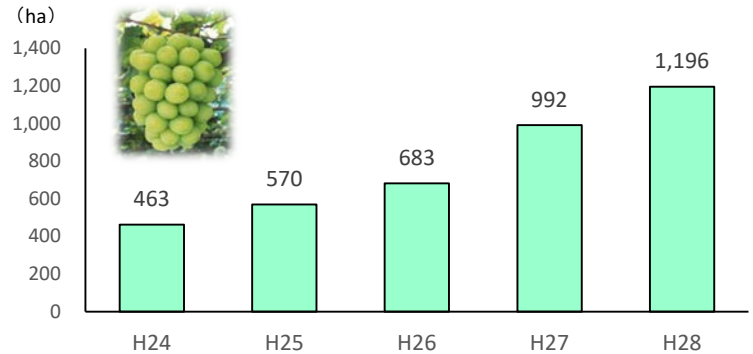
資料：農林水産省「青果物卸売市場調査報告」

（参考）補助事業による優良品種・品目への転換実績

		H25	H26	H27	H28	H29	H30
転換面積（ha）	年度	897	962	861	904	774	702
	累計	4,687	5,649	6,510	7,414	8,188	8,890

注1：転換面積とは、果樹経営支援対策事業により、優良品種・品目への改植・高接を実施した面積
注2：累計は果樹経営支援対策事業が始まった平成19年度以降に事業で改植・高接を実施した面積の各年度での合計

（参考）シャインマスカットの栽培面積の推移

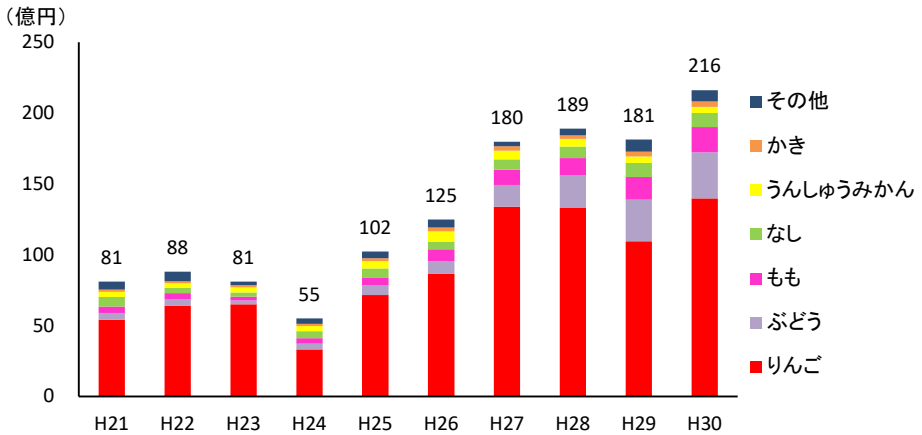


資料：農林水産省「特産果樹生産動態等調査」

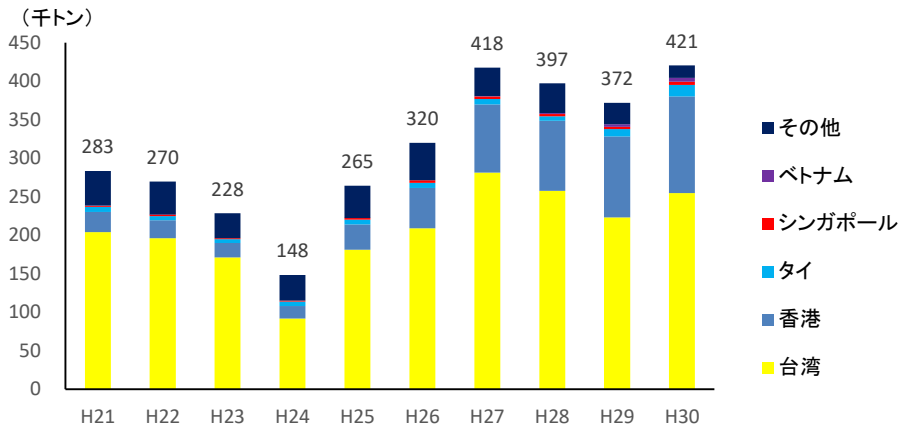
2　果樹農業の特長と重要性 ②（果実の輸出状況 ）

○　日本の果実は、その高い品質がアジアをはじめとする諸外国で評価され、輸出額は近年増加傾向で推移しており、平成30年は約216億円と、過去最高を記録。
○　我が国の高品質な果実は、海外においてもニーズが高い。

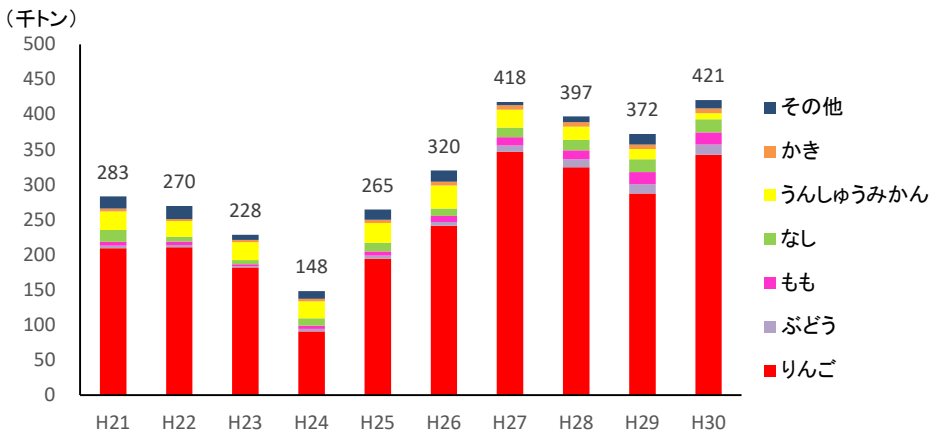
○品目別輸出額の推移



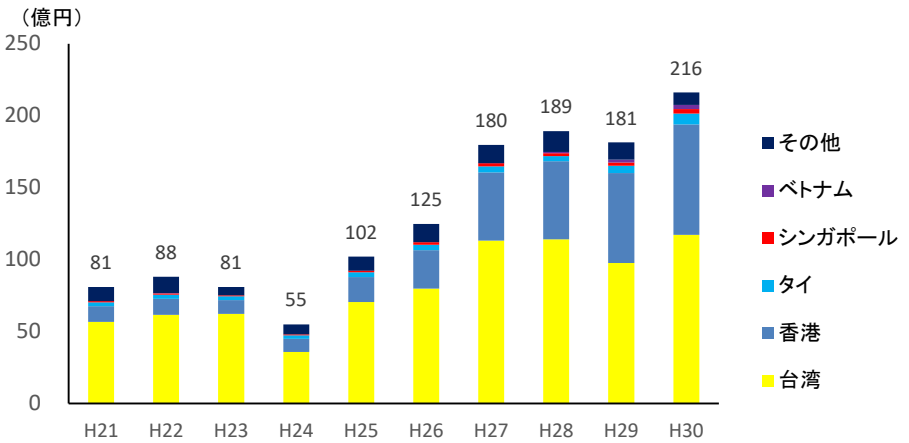
○国・地域別輸出額の推移



○品目別輸出量の推移



○国・地域別輸出量の推移

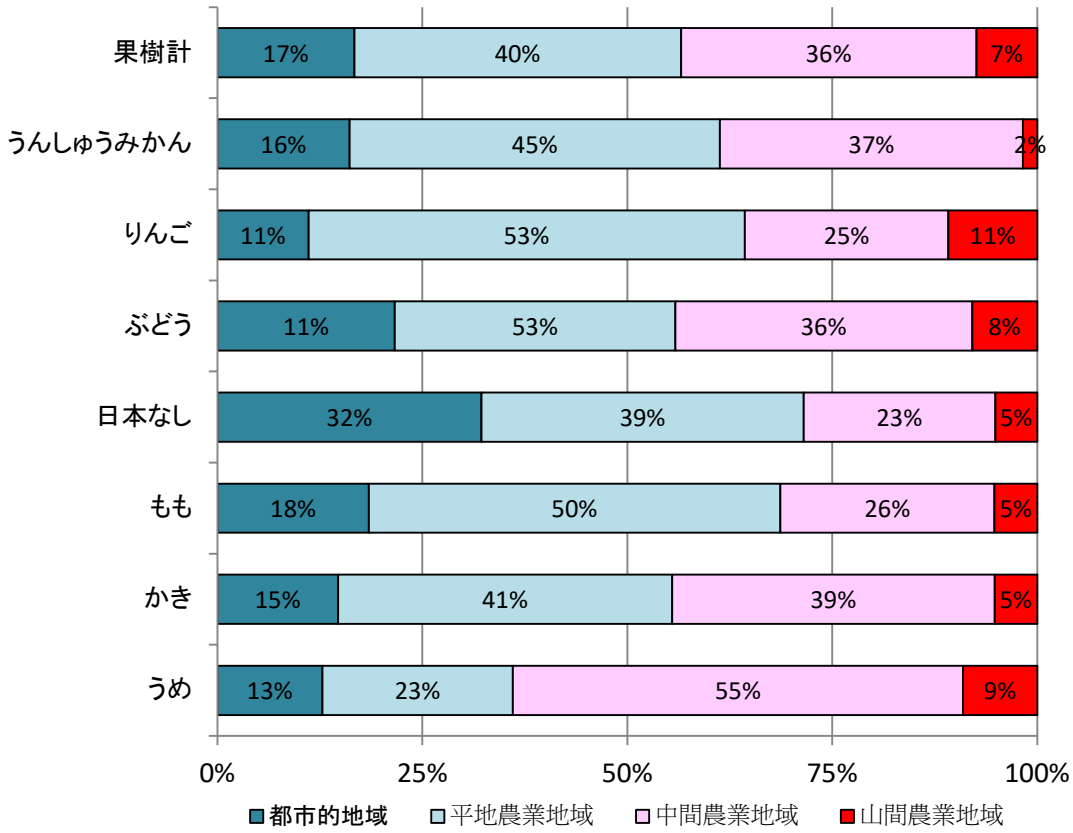


資料：財務省「貿易統計」を基に農水省にて作成

2　果樹農業の特長と重要性 ③（中山間地域割合）

○　果樹は、急傾斜地が多く、他の作物の栽培が困難な中山間地域での栽培が多い。
○　こうした地域を中心に形成された主産地においては、果樹が農業産出額の多くを占める基幹品目となっている。

○果樹の栽培面積に占める中山間地域の割合



資料：農林水産省「2015年農林業センサス」
注：値は、農業地域類型別の露地栽培面積（販売目的で栽培した栽培面積）割合

○果樹主産地における基幹品目の農業産出額割合（平成18年）

基幹品目	主産地	農業産出額（億円）		基幹品目割合 (B)÷(A)
		合　計 (A)	基幹品目 (B)	
うんしゅうみかん	有田市（和歌山）	59	49	８３％
	八幡浜市（愛媛）	120	75	６３％
りんご	弘前市（青森）	384	300	７８％
	長野市（長野）	159	61	３８％
ぶどう	甲州市（山梨）	111	64	５８％
日本なし	市川市（千葉）	42	27	６４％
も　も	笛吹市（山梨）	198	89	４５％
か　き	五條市（奈良）	90	43	４８％
おうとう	東根市（山形）	127	55	４３％

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

3　果樹農業の現状と課題 ①（需給安定対策の状況）

○　従来の果樹政策は、うんしゅうみかん及びりんごを中心に供給過剰を前提とした需給安定対策であった（縮小再生産で量を減らす政策）。

○　近年は、適正生産量を生産量実績が下回る状況が続いており、緊急需給調整対策特別事業については、うんしゅうみかんは平成24年、りんごは平成21年以後は発動していない。

○　これらのことから、うんしゅうみかん及びりんごはもはや供給過剰の状態ではないと考えられる。

○適正生産出荷見通しにおける適正生産量と生産実績の推移

（万ﾄﾝ）

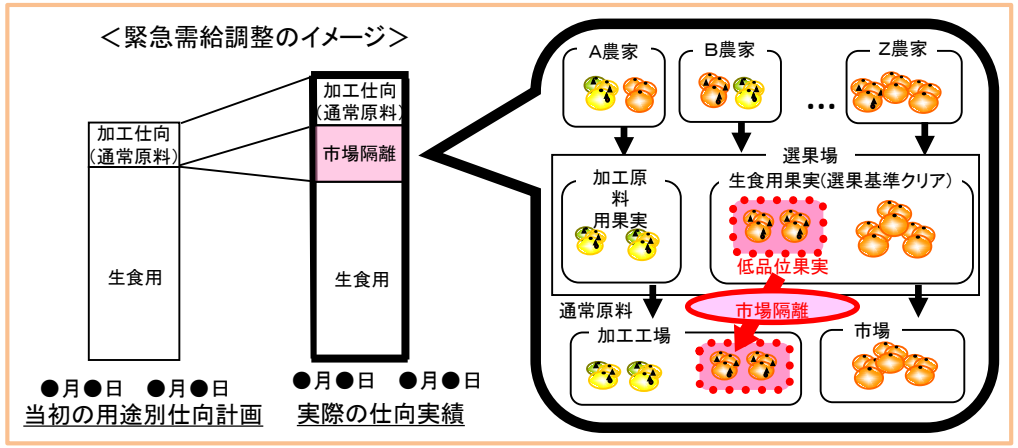
		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
うんしゅうみかん	適正生産量（α）	125	115	115	111	111	107	107	94	100	90	98	91	93	89	90	89	87	84
	生産実績（β）	128	113	115	106	113	84	107	91	100	79	93	85	90	88	78	81	74	77
	差（β－α）	3	▲ 2	▲ 0	▲ 5	2	▲ 23	0	▲ 3	0	▲ 11	▲ 5	▲ 6	▲ 3	▲ 2	▲ 12	▲ 9	▲ 13	▲ 7
りんご	適正生産量（α’）	91	89	87	87	87	86	86	86	86	85	84	79	80	80	81	81	81	81
	生産実績（β’）	93	93	84	75	82	83	84	91	85	79	66	79	74	82	81	77	74	76
	差（β’－α’）	2	4	▲ 3	▲ 12	▲ 5	▲ 3	▲ 2	5	▲ 1	▲ 6	▲ 18	0	▲ 6	2	0	▲ 5	▲ 8	▲ 5

適正生産出荷見通しについて：生産量の変動の大きいうんしゅうみかん及びりんごについて、需要に即した生産及び価格安定を図るため、国が近年の国内外の消費動向や当年産の着花量等を勘案し、全国の適正生産出荷見通しを策定

○緊急需給調整特別対策事業について

◆一時的な出荷集中時に緊急的に生食用果実を加工原料用に仕向ける措置を支援◆
（うんしゅうみかん、りんご）

・生食用果実を緊急的に加工原料用に仕向けた場合の掛かり増し経費（選果経費、一時保管費、加工工場への運賃）の一部を支援



（参考）事業発動実績

発動年次	品目	発動期間（選果日）	加工仕向量実績
平成19年	みかん	11月24日～12月 9日	14,677ﾄﾝ
平成20年	みかん	10月22日～10月31日	3,009ﾄﾝ
平成21年	みかん	10月20日～10月29日	3,530ﾄﾝ
	みかん	11月19日～12月 9日	6,868ﾄﾝ
	りんご	11月27日～12月 6日	757ﾄﾝ
平成24年	みかん	10月20日～10月31日	2,412ﾄﾝ

3　果樹農業の現状と課題 ②（需要への生産側の対応）

○　需給安定対策の下、果樹生産者は利益の最大化を図るべく、手間をかけることによる高品質化を選択。
○　高品質果実生産のための技術により、消費者ニーズに合致した高品質な果実を生産することで、それが市場・消費者に評価され、近年の卸売価格は堅調に推移。

【高品質果実生産のための技術】

【みかん・周年マルチ点滴かん水同時施肥法（マルドリ方式）】
- シートマルチとマルチ下の点滴かん水及び液肥施肥を行う栽培技術
- マルチシートの敷設やきめ細かい水分管理に労働負荷を伴うが、みかんの糖度が向上

【りんご・葉つみ　玉回し】
- 果実肥大期に果実周辺の葉を摘み、果実を回転させて着色を促す作業
- 労働負荷が大きいが、着色を良好にすることで外観品質が向上

【光センサー選果システム】
- 果実を傷つけることなく、外観形質及び内部品質を測定する機械
- 初期投資が必要だが、高糖度果実を選別し高単価での販売が可能

【ぶどう・ジベレリン処理　摘粒】
- 幼果をジベレリン浸漬処理で種なし化・肥大化し、手作業で余分な粒を取り除く作業
- 労働負荷が大きいが、果実品質の向上と房型を整え外観品質を向上

【品質向上の効果】

- 水分調整による糖度向上
- 糖酸比の調整による食味向上

- 着色が良好となり外観が向上

- 非破壊で内部品質を確認することで、高糖度果実の選別・出荷が可能

- 適正な粒数にすることで糖度向上
- 房につく粒を調整することで外観が向上

【市場価格】

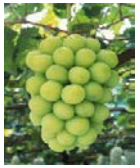
・うんしゅうみかん
269円/kg
青果物卸売市場調査（平成30年産）

【参考】オレンジ（米国産）
184円/kg
CIF価格（米国産オレンジ）（平成30年）

・りんご
292円/kg
青果物卸売市場調査（平成30年産）

【参考】NZ産
240円/kg
CIF価格（NZ産りんご）（平成30年）

・ぶどう
1,041円/kg
青果物卸売市場調査（平成30年産）



【参考】米国産
347円/kg
CIF価格（米国産ぶどう）（平成30年）